

フレッシュマンキャンプにおける指導不安に関する研究 —指導学生の性格特性と特性不安との関連—

佐藤 将哉 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)
指導教員 橋本 和俊

キーワード：指導不安, 性格特性, 特性不安

1. 緒言

野外活動では予測や判断が難しい場面が想定され、特にその指導において強く不安に感じることがある。不安には、ある状況下で大きく変動するような状態としての不安と、ある個人において比較的一定していると言われる性格特性としての不安がある(岩本ら1989)。Spielbergerは不安傾向の高い人は、失敗や自己評価への脅かしにあうと、不安傾向の低い人より脅威を感じると述べている(曾我1993)。指導場面に置き換えると特性不安が高いと状態不安が高まり的確な指導をすることが困難になることが予想され、さらに性格特性によって不安に感じる指導場面や程度が異なることも考えられる。

そこで本研究では、フレッシュマンキャンプにおける指導学生の指導不安の探究を行い、指導学生の性格特性・特性不安との関連を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

【対象者】B大学の野外スポーツコースの学生計86名を対象とする。また新入生を対象に行われているフレッシュマンキャンプを指導場面として想定する。3・4回生は指導者(キャンプカウンセラー)の経験を有し、2回生は今後指導に携わる予定にある。

【調査方法】事前アンケートを基に筆者が独自に作成した指導不安尺度(30項目)、小塩ら(2012)が作成したTIPI-J尺度(10項目)、清水ら(1981)が作成したSTAI尺度(20項目)によるアンケート調査を実施した。統計的処理にはSPSSを使用し、因子分析、相関分析、分散分析、t検定を行った。

3. 結果と考察

指導不安尺度30項目を因子分析したところ、「対人指導不安(9項目)」、「知識・指導経験不足不安(6項目)」、「潜在リスク不安(10項目)」の3因子25項目に分けることができた。

指導不安について性別にて比較したが、すべての因子で有意差は認められなかった。

指導不安について学年にて比較を行った結果、3因子すべてで有意差が認められた。また、多重比較の結果「対人指導不安」「知識・経験不足不安」において2回生と4回生の間に有意差が認められ

た。「潜在リスク不安」においては3回生と4回生の間に有意傾向が認められた。4回生のほうが2・3回生より指導不安は低かった。このことから、指導経験により差がみられたと考える。

性格特性と指導不安の「外向性」と「対人指導不安」、「開放性」と「潜在リスク不安」に弱い負の相関が認められた(表1)。外向性得点が高いと対人指導不安は低くなる。また開放性得点が高いと潜在リスク不安は低くなることが示された。水野(1997)によると、外向性は対人関係を円滑に処理することと強い関連があると述べている。このことから、本研究でも示唆される結果となった。

表1 指導不安と性格特性の相関関係

	M(SD)	対人指導不安	知識・経験不足不安	潜在リスク不安
		23.72(8.30)	17.93(5.73)	27.91(7.61)
外向性	10.08(2.59)	-.376**	-.107	-.091
協調性	9.91(2.10)	-.084	-.004	-.164
動機性	7.81(2.14)	-.183	-.195	-.204
神経症傾向	7.40(2.36)	-.169	.024	.147
開放性	9.24(2.06)	-.208	-.133	-.256**

** : p < .01

「特性不安」と指導不安の「対人指導不安」「潜在リスク不安」に弱い正の相関が認められた(表2)。つまり、特性不安が高くなると対人指導不安と潜在リスク不安も高くなることが示された。キャンパーは大学生であるため、ある程度自身で考えて行動できることが考えられる。よって、キャンプカウンセラーの指導不安はそれほど高くならなかった。指導対象が変われば指導不安は高くなることが考えられる。

表2 指導不安と特性不安の相関関係

	M(SD)	対人指導不安	知識・指導経験不足不安	潜在リスク不安
		23.72(8.30)	17.93(5.73)	27.91(7.61)
特性不安	43.27(7.80)	.330**	.124	.235*

** : p < .01 * : p < .05

4. 結語

本研究では指導不安と性格特性・特性不安に関連があることが明らかになった。

このことから、事前にキャンプディレクターはキャンプカウンセラー個人の特性不安や性格特性なども踏まえて助言や指導について配慮し、指導不安を軽減する必要がある。

今後の課題として、対象者や野外活動場面を変えて検討する必要がある。

引用・参考文献

1) 小塩真司、阿部晋吾、カトローニ ピノ(2012):日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) 作成の試み、パーソナリティ研究、第21巻、第1号、40-52